

十八女町の皆さんへ

2020. 10. 8

湯浅恵次

090-7575-1994

10月7日にコミュニティセンターで行われた築堤整備事業の現状説明会の概要をお知らせします。まだまだ調査が必要で具体的なことはその調査の結果からと言うことです。

2020. 10. 7(水) 18:00-18:45
十八女町河川改修事業地域役員さんへの説明会概要

南部県民局 中川さん、遠藤さん
那賀川河川事務所 原田さん、坂巻さん、国崎さん
十八女町委員7名、湯浅恵次

2月25日の全体説明会から半年が過ぎているので、現在の状況について説明したい。また、国の河川事務所からは掘削土の有効活用について説明したい。

県から

堤防をどのあたりにするか、法線について検討しているところである。今予備的な設計をしているところである。さらに調査が必要であり順次調査の発注をしていく予定である。その中で内水の影響がどうなのかを検討する必要がある。12月をめどになお、検討したい。さらに環境調査、魚類、鳥類、昆虫、植物などの状況を調査する。樋門構造をどうするかについて、地質の調査として、ボーリング調査が必要である。今後調査の発注をしていく予定である。敷地への立ち入りについてご協力をよろしくお願ひしたい。

国から

2月28日に予定していたビニルハウス栽培者との協議は新型コロナウイルス感染症予防のため延期になっている。掘削残土の有効活用のため持井の堤防と十八女の築堤工事の一環の中で地盤が上がれば内水対策にも効果があれば有効活用したい。このことについてはビニルハウスの移転という懸念材料もある。水道はどこから引っ張っているのかなど調査が必要。どこをどうかさ上げできるのかを検討するために今後説明会を予定している。内水にどんな影響があるか県と一緒に検討していく。かさ上げについては借地のこともあり地元で説明会をする予定であるが、その時期についてははっきり言えない。那賀川の川幅を広げる掘削の残土をどこへ持って行くのか県と連携してここをこう上

げたいという説明をしたいと考えている。前回の会から期間が空いてしまったのでこういう説明会をもった。

質疑応答

①営農の計画がある。いつまで作物が作れるのか知りたい。

今年度はこれから予備設計であり、環境調査もあわせて1年はかかる。なので来年中はかかる。それと並行してボーリング調査なども行う。すなわち来年度予備調査、環境調査、詳細設計とすすむ。山付きの県道部分のことや樋門のことなどもあり、時間がかかる。その後用地の調査、保証物件、用地交渉、本工事という流れなので来年度は工事にはかかれない。例えば、苗が無駄になるようなことのないように前もって連絡提示する。

②堤防がどこまで来るのか、知りたい。

まだ、内水の検討もあり、その後詳細設計であり、どこが堤防に入るのか示せない。しばらく待っていただきたい。

③持井の堤防との関連はどうなのか？

持井は現在概略設計の段階である。持井には田畑しかない。比較的早くすすむ。来年中には詳細設計ができるのでは。次の年に用地交渉の予定である。十八女と同時に進行するかもしれない。十八女が広いので時間がかかるかも。

④かさ上げについて詳しく知りたい。

内水の評価ができないと詳しくは話せない。水の確保。田畑の栽培ができるように用水、農道も整備する。

⑤圃場整備について知りたい。

国ではできない。市の管轄である。内水解析の結果をもとにかさ上げの可否を判断していく。

⑥イチゴ、すだちなどの農家について町外で土地を借りて栽培するようなことになるのであれば、国、県で対処してほしい。

独自の算定方法がありその方法に基づいて借地の補償は行う。まずは調査である。

⑦堤防の土はどこから持ってくるのか知りたい。

公共工事が出た公共残土を活用する。それで足りなければ購入土を使う。まだ、決まっていない。

最後に、測量中にも「工事はいつか？」というような質問を受けていた。今後の調査についてもその都度総代を通じて連絡をする。十八女町で貴重な魚や植物、昆虫があれば教えてほしい。例えば糸トンボ。